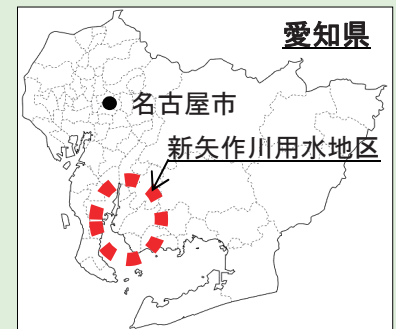


〇がんばる農家探訪～新矢作川用水地区の受益を訪ねて～

位置図

1. 新矢作川用水地区の概要について

当地区は、愛知県のほぼ中央に位置する西尾市ほか4市1町において、国営土地改良事業等により、基幹的な農業水利施設の整備、更新、補修を実施しており、水稻を中心に、水田の畑利用による小麦、大豆を組み合わせた土地利用型農業や、にんじん、たまねぎ等の野菜、かき、いちじく等の果樹、きく、カーネーション等の花きの栽培を展開する、県内有数の優良農業地帯となっています。



2. 咲こう農場（株）の概要について

今回は、新矢作川用水地区内で、土づくりにこだわりながら、水稻、麦、大豆、たまねぎを栽培し、お米の直接販売やほ場への景観ひまわりの作付けなどに取り組まれている、西尾市の

「咲こう農場（株）」尾崎大作代表にお話を伺いました。

尾崎代表は、会社員として営業職を経験後、「父が築いてきたこの地域の農業を守らなければ」という思いから、平成11年に後継者として就農し、今年で営農20年目となります。

平成26年に、「地域の人が慣れ親しんだ地名を何らかの形で残したい」「地域に愛される社名にしたい」という思いから、社名を「尾崎農場」から、この地域の氏神である「曬稿（さこう）社」に由来して「咲こう農場」に変更しました。

現在は、尾崎代表ご夫妻のほか、常勤4名、非常勤4名の経営体制で、水稻45ha、小麦25ha、大麦（裸麦：きらりもち）5ha、大豆35ha、たまねぎ5haを栽培しています。

経営の中心となる米の栽培については、毎年土壌分析を行い、その土に合った最適な施肥法を実践しながら、特別栽培米を生産しています。

多品種のお米を栽培し、「咲こう米」や「祐大^{ゆうだい}」など自社ブランドの名称で、尾崎代表が開拓した販売先にて販売しており、また、これらこだわりのお米は、西尾市のふるさと納税の返礼品としても認定され、令和元年産は品切れ（令和2年1月現在）となってしまうほどの評判です。

また、大麦は「もち麦」の原料として愛媛県の業者に販売、精麦した麦を仕入れる形で販売を行っており、その商品「きらりもち麦」は、腸内環境を整える食材として近年のブームに乗り、売れ行き好調とのことです。

さらに、「農地を貸してくれている地域に対するせめてもの恩返し」のため、ほ場に約200万本の景観用のひまわりの植栽を行っており、季節になると、地域外の方からも植栽場所や開花時期の問い合わせが来るなど、地域内外問わず話題になっています。

「農地を有効に活用し、どれだけ価値あるものを生産するかが営農者としての使命」と話され、地域との繋がりを大切にしながら、柔軟な作付転換や販売方法の工夫等、こだわりの営農を実践されている尾崎代表でした。

※「咲こう農場（株）」の概要や取扱商品については、下記URLをご覧ください。

<https://www.osaki-nouen.com/>



【従業員の皆さん】
（後列中央が尾崎代表）



【こだわりの米「祐大」（写真左）
と「きらりもち麦」（写真右）】



【ひまわりの植栽】